

A-72 食品の嗜好について、オス報 両親と子供の嗜好について  
帯広大谷短大 の山下 昭 池添博孝

目的 食品の嗜好を調べる事は、多くの人々の好みにあった美味な食品を作るためにも、また食品の質を向上させるためにも必要である。われわれは食品の嗜好に影響を与える因子について調べているが、今回は親子の間の嗜好傾向とその関連性について分析したので報告する。

方法 Hedonic Scaleを用いて、100種の食品について嗜好度合を調べた。対象は98家族、計374名で、母親の年齢により4群に分け、母親、父親、子供(女)および子供(男)のそれぞれについて各食品に対する嗜好傾向を捉える事によって、個々の群における親子間の嗜好について検討した。

結果 100種の食品に対する全対象の平均嗜好尺度値は $3.8 \pm 1.6$ で“すこし好き”の区分に属した。母親の年齢による家族別では、20代の家族の平均値は $4.0 \pm 1.5$ 、30代 $3.7 \pm 1.6$ 、40代 $3.8 \pm 1.6$ 、50代 $3.8 \pm 1.5$ で両親の間では父親に較べて母親の側の値が小さい。食品群では、いずれも果物が好まれ、肉類、野菜類の嗜好は余り好まれない。全食品中、好む食品の割合は、全体の平均値で19.2%を示した。その内わけは、母親19.5%、父親14.5%、子供(女)24.8%、子供(男)19.5%で親子共に女性のほうが好む割合は大きく、また親に較べて子供の割合が大きい。嫌う食品は平均値16.7%で、母親13.3%、父親19.5%、子供(女)18.8%、子供(男)15.4%で両親と子供では幾分子供の方が嫌う傾向が大きかった。